



浪江町長
馬場 有

平成30年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、震災と原発事故発生から早いもので7回目のお正月を迎えました。皆さま、それぞれご自宅や避難先で新たな年をお迎えになったことと思います。避難生活を送られている皆さまにおかれましては、改めて衷心よりお見舞い申し上げます。

昨年は、3月31日に町全域に出されていた避難指示が、帰還困難区域を除き解除され、町の復興と創生を加速させる大きな一歩を踏み出すことができた年となりました。4月のJR常磐線浪江駅の運用再開、9月には国道114号などの特別通過交通が開始されたことに伴い、町内へのアクセスが容易となり、皆さまの利便性が向上し、町内外の交流促進を図ることができました。

さらに、産業分野においては、町が整備を進めている産業団地への企業誘致が実を結び、震災後初めてとなる工場

立地に関する基本協定を締結しました。これに加え、国家プロジェクトとなる大規模水素製造拠点の建設も決定するなど、雇用の場の創出に向け、着実に歩を進めることができました。

また、農業においては、第二次浪江町農業再生プログラムを策定し、農業再生に向けた取り組みを開始することができ、漁業では、請戸漁港へ26隻全の漁船が戻り試験操業を開始しました。そして、11月には7年振りに浪江町内において十日市が開催され、多くの方々にお越しいただき、たくさん笑顔を見ることができました。この賑わいを再び浪江町に取り戻すべく、不断の努力を重ねていくことを改めて誓ったところです。

次に、平成30年の施策について所信の一端を述べます。本年は、浪江町復興計画【第二次】に定める本格復興期の2年目に当たる年となります。まずは、帰還困難区域の復興拠点整備を進めるために、

室原、末森および津島の3か所に拠点となる区域を設け、除染や施設の復旧を順次行い、5年後の避難指示解除を目指してまいります。これに並行して、国に対し、帰還困難区域全域の避難指示解除に向けた取り組みを進めるよう引き続き要望してまいります。

また、主要プロジェクトとして、「交流・情報発信拠点施設整備（道の駅）」、「世界最大規模の水素製造拠点施設整備」、「復興祈念公園整備」など、各種大型事業を具現化してまいります。

教育、子育てでは、浪江東中学校敷地に整備した「なみえ創成小学校・中学校」、「浪江にじいろこども園」を4月に開校・開園し、再び浪江町に子供たちの声を響かせたいと考えています。

また、戻る町民、戻れない、戻らない町民、双方の方々に支援するため、これまでの各種支援策の拡充に努めるとともに、引き続き「絆」を大切に、町民同士が交流できる場

新年のご挨拶



浪江町議会議長
紺野 栄重

平成30年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年3月31日、全町に出されていた避難指示が一部解除され、初めての正月を迎えました。町民の皆さまには、解除後の現在もそれぞれに不自由な生活を強いられていることと思います。衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年4月以降、町民の方々の町内往来が大変多くなりましたが、町内の居住人口は400人余りであり、夜の灯りは少なく寂しい状況であります。しかし、復興は着実に進んでおり、町内には災害公営住宅や公的賃貸住宅が着々と整備されており、徐々に人口も増えてくるものと期待しております。

去る11月25日、26日には復興なみえ町十日市祭が開催されました。震災以降、初めて浪江町内での開催でしたが、天候にも恵まれ大変な賑わいでした。会場では再会を喜び浪江町の復興を誓い合う姿もあり、これからの町の復興を

予感させるような晴れやかなお祭りでした。

今年も、「浪江にじいろこども園」が開園し、「なみえ創成小・中学校」が開校になります。入学する児童・生徒は町の宝として、地域で温かく見守り育てていきたいと思います。

また、若い人が働く場所がなければ復興に結びつかないため、産業団地の造成、企業誘致も進められております。藤橋地区の日本ブレーキ跡地には蓄電池会社の進出が決まり、誘致企業第1号となり、また、棚塩産業団地には水素製造拠点施設の建設が決定されました。

千年に一度の大震災、そして経験したことのない原子力発電所の事故、これら乗り越えるためには過去に学ぶことが大切であると思います。

その昔、相馬藩は天明・天保の飢饉を乗り越えてきました。その際に復興の根本となったのが「二宮尊徳仕法」であり、ます。日常的な創意工夫による「勤労」、収入の範囲で生活する「分度」、それによって得ら

れた蓄積を、自身の生活安定向上と仲間や社会への救済と投資に充てる「推譲」、そして誠実な実践である「至誠」によって達成されたものです。私たちも尊徳仕法に学び、浪江町を復興しなくてはならないと思います。

私たちは、大震災以降、多くの方々にお世話になりました。このご恩に報いるには、私たち自身が復興し、浪江町が復興することが必要であると思

います。中国の古事に「まず隗より始めよ」と言う言葉があります。大きな事を成し遂げるには、まず身近な事から少しずつ事を成す事が大切という意味であります。今年も、町民の皆さんと身近なことができることから始め「浪江町復興の礎となる年」としたいと思います。

本年も昨年同様、全議員一丸となつて様々な課題の解決に邁進いたしますので、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。新年のご挨拶といたします。

となるイベントの開催や再生するふるさと浪江の姿を情報発信するなど広報の充実を努めます。

以上、本年の施策について所信の一端を述べさせていただきました。浪江町の復興と創生の実現にはまだまだ多くの課題の解決が必要となります。ここに改めて皆さまの支援とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、寒気の厳しい折、皆さまにはご健康に留意され、新年が良き年となりますようご祈念し、年頭に当たつての挨拶といたします。



浪江町議会議員
(議席番号順)

- 石井 悠子
- 高野 武
- 半谷 正夫
- 紺野 則夫
- 佐々木 勇治
- 平本 佳司
- 渡邊 泰彦
- 佐々木 恵寿
- 松田 孝司
- 山本 幸一郎
- 山崎 博文
- 泉田 重章
- 佐藤 文子
- 吉田 数博
- 馬場 績